

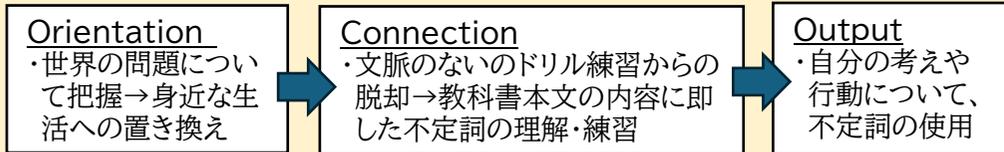


○授業改善の2つの柱

- ① 文法指導 単元の目標と教科書本文・文法を関連付ける。
- ② 読解指導 「概要」や「要点」を読み取り、アウトプットにつなげる。  
言語活動の「目的・場面・状況」を明確に設定し、自律的な学習者を育成

① 単元を丸ごと1つのストーリーにする文法指導

NEW HORIZON 1年生 Unit8 Think Globally, Act Locally



文法操作自体を目的とせず、世界を理解し語るための手段とした文法を導入

教科書の内容を踏まえた単元の目標を設定することで、活動を繋ぐことができます。

実践例

Part1 不定詞名詞用法 Some children can't go to school. (教科書本文)	イラストを見てケニアの子どもの心情を想像する。	Children in Kenya need to work. I want to work as a volunteer.
Part2 不定詞の疑問文 We try to reduce plastic waste. (教科書本文)	地球温暖化に対して自分ができることを問い合う。	What do you want to do? → I want to use my water bottles.
Read&Think look + 形容詞 They look happy. (教科書本文)	ケニアの写真等を見て、その人たちがどう見える伝え合う。	The children look tired. Because they need to work.

生徒の変容と今後に向けて

- 教科書の内容と文法練習がリンクし、より深く英語で表現できるようになった。
- トピックに関わる反復練習により、単元の出口の活動でも使う姿につながった。
- 生徒が不定詞を使う際に自然に“want”は使えるが、それ以外の表現が少なかった。多様な動詞が使えるような場面設定の中で練習する必要がある。

1年生には難しい社会的話題も、繰り返し扱うことで自分なりの型ができあがります。

② 読むことで終わらないアウトプットにつなげる読解指導

日枝中学校の定義

概要把握

文章全体の把握するために、一語や一文に留まらず最後まで読み、出来事や情報の流れを捉え、自分の言葉(既習内容を用いて)で内容を再生できる状態。  
Keywords:再生、流れ、既習内容の駆使 Goal: Retelling

要点把握

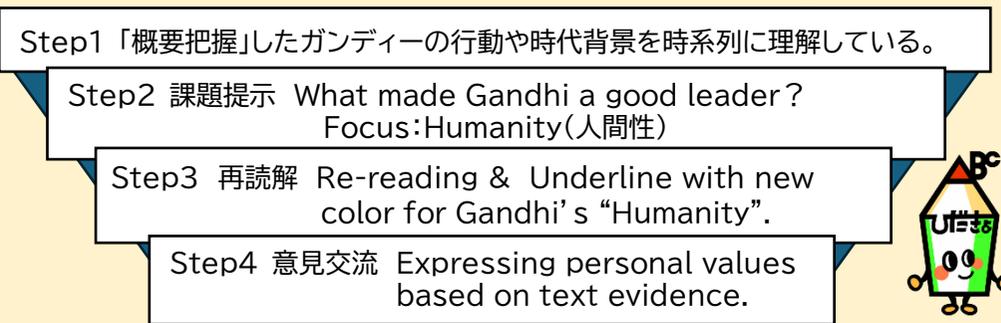
文章の全体の構成や論理関係を踏まえながら、書き手が最も伝えたかった内容や意図を捉え、それに対する自分の考えを、根拠をもって表現できる状態。  
Keywords:意図、価値、判断 Goal: Opinion & Dialogue

実践例「概要把握」 NEW HORIZON3年生 Unit5 What makes a good leader?



自分が読み取れたことを、英語で繰り返し伝え合うことで、内容の理解が深まります。

実践例「要点把握」 NEW HORIZON3年生 Unit5 What makes a good leader?



※生徒は単元を通して、人間性に関する語を書き溜める単語リストを作成している。

生徒の変容と今後に向けて

- 概要…自分が読み取れたことを交流するため、長文への抵抗感が減少した。
- 要点…「意見の表出」がゴールになるため、「技能統合」的な授業が実現可能。
- 日枝中の定義を作成したのは、評価する際の「概要」と「要点」の線引きが難しかったからである。読み取る「目的」を明確にすることが評価のカギになる。

読み方の指導を丁寧に行っていることが秀逸。長文読解のテストでも汎用性があります。